球磨の旅

三川支部　上田鉄男

かけこみし準急第二かいもんは
ようやく五分おくれ発車す
みはるかす八代平野の苗田青く
車窓をあふる風の涼しさ
八代の駅で列車を乗りかえる修
学旅行の列にまじりて
球磨川に沿い行く汽車のまばら
なる客みな声に訛りをもてり
トンネルに掛れば汽笛鳴らす汽
車大きな息を吐き出すごと
瀬の音はいよいよ高し白々と波
潜れ残る球磨の山峡
先着の女子群そろいの浴衣にて
出迎えくるる駅の灯まぶし
久々に星見ゆる夜はるばると来
し人吉の街の明るさ
球磨川の瀬音はげしき橋の上風
なければども夜の闇すずし
水量の豊かな音をたてており常
夜灯下の球磨のうずまき
手土産のアイスクリーム金払わ
ざりし田中君に持たせる
仁和さんも程内さんも眠りおれ
ばアイスクリームセイちゃんが
食う
深夜放送きくと言う田中君のた
めに女の部屋までラジオとりに
行く
しゃべりいしツカちゃんもセイ
坊もねつきたい唾気はずでにさ
めている我
浴室へ渡る廊下の脇の部屋深夜
もたえずひびく足音
土産などあさりに出たる女子群
と連れ立ちし塚元君が独り帰り
来
留守番の大坂間君に買う土産結
局食べるものに決まりぬ
苔あおき城の石垣洗いおり五月
雨はれし球磨の流れは
見下せば川浪白く砕けおり繊月
城の石垣のすそ
相良家の歴史は古く苔むして川
舟あまた干せる石垣
別れ水かけられし顔拭きおれば
指にはかなくテープほぐるる
舟はすぐ球磨の流れにのりにけ
り切れしテープの色からみつつ
河合又五郎の邸あとにか舟から
はただ青草の丘見ゆるのみ
哀浪の歌をガイドが詠ずるを舟
ゆれやみし隙にノートす
夏空の一劃占めて丘の上茂る
木立は渡城あと
増水の川岸低く見えており緑か
げ濃きスズミドの岩
妾腹の故に斬死したる名も熊太
郎の洲の石ころ太し
青嵐吹きおろし来る猿飛の瀬は
大小の岩を配置す
先ずへさき近くに座せる程内さ
んが大きな波の洗礼をうく
五大瀬の先ず一番の瀬にかかる
泥立つ渦は数を増しつつ
虎岩の肌うす黒くかわく苔五月
の昼の太陽の下
歌詞よくは解らねど「正調五木
の子守唄」うたうガイドの声の
哀調
後続の供舟いまだ瀬にありて渦
をさけつつしなうジグソウ
波しぶき拭う隙なく解説をつづ
けるガイド中腰のまま
いただきにやせ松まばら生うる
のみ姑落しの荒き岩肌
息をのむいとまもあらず乗りき
りし檜倒しの瀬すでにはるけし
舟を追い抜きしウイスキーの空
ビンはたちまち渦にのみこまれ
たり
耕して急勾配の山腹を登りつめ
たる如き家見ゆ
断崖にしがみつきたるかたち
にて小さき部落の小さき家なみ
断崖に立ち向うごと鍬ふりて
僅かな土地に動く人かげ
かぶりたる波は冷たく背を伝う
舟は渦なお太き瀬に入る
川舟を降りて埃の舞う長き白石
の橋渡るけだるさ

円虹句会

38・6・2

田中末草
木登るトカゲ黒き舌もつジェット機飛び
梅雨めく炭住不況鉱夫は斗い持つ

能勢幽女
病癒えてまぶしさに耐え初夏に耐え
もの刻む高きリズムを百合が吸い込む

清本はるき
ほてる足浸けては蚓蚓の列みだす
梨の樹液掌に染め主婦ら唄い出す

北村瞳
くびはあくまで拒めつばくら握手したし
つゆの雷うつろな炭坑（やま）の軒ゆする

村中利行
麦秋に尖がる長雨茫々と田の哭く
五月雨太い鉱夫のシャツ粋な陽が欲しい

木下八重子
アマリリスの午後が小さな背を向ける
雨上りの蝶が一度に飛び立つ方向

投稿

抵抗しつづけよう

宮浦支部　高椋龍生

「第一組合がストして、粘り強か抵抗ばかりつづけてくれるけん、まあだ、おどん達あ、会社から甘か汁ば吸わるっとぞ……」
「新労ばかりなったら、どげんなっじゃろか」
「そりあ、会社んいうごつ、するごつくさ——おい、ちょっと鉱長室に来てくれ——はい、それまででしまいたい」
「ほんなこて、賃金一〇%の棚上げとろん、ボーナスはどうのこうのとろん生産に協力するおどん達にでん、してくるごつなったが第一組合のもんのいうとがほんなこつばい」
「新労んもんの、声なき声が、こんどん役員改選では大ごつしでかすばい、ひょっとすっとひっくり返ってしまうばい」
こんなささやきが、このごろ職場の至るところで、声となって聞えてくるようになった。
労働者としての本音を吐き出して来つつあるようである。

※　※　※

「第一組合のもんな、天井ん危なかで思たときあ、柱打つか、枠ば張って身の安全が保障さるるまでは入って仕事ばせんばってん、おどん達あ、係員がは入って、せろていうならビクビクしながらせんなんどばい」
と敷くのを傍で聞いて涙を流した、というある妻の話を、この耳で聞いた。
就業以来、三十八名の尊とい仲間の命がもぎとられ、その家族は困苦のどん底に追いつめられていった。
そして、そのことは事実となって、いつ、だれの上となく、しかも容赦なく襲いかかろうとしている。
生産の上昇に反比例して、炭鉱労働者の生命と生活は常におびやかされ、じゅうりんされ働く職場さえ失いかけようとしている。
合理化とは、そんな無惨なもの非道なものであり、だれ彼の差別なく、労働者の犠牲の上に立つ合理化を、政府を始めとする反動勢力は総力を挙げて、否応なしに一方的に問答無用に押し進めようとしている。
労働者には、働く権利、生きる権利、人間らしく生活する自由がある。合理化斗争は、そのための抵抗斗争である。

※　※　※

低俗な音楽で労働者を酔わせ、過剰以上のプロ野球熱にあおり立て、いまやマス・コミの力は、労働者をゆがめられた文化へと追いやり、考える力と時間、話し合いの時間と力さえ奪い去り、労働者を無能力化し労働者の抵抗と団結を弱体化させ、組合を有名無実のものにしようと奔走している。
為政者たちに欺されてはならない。労働者は、そんな浅薄な、利那主義に溺れていてよいものだろうか。
いまも労働者は、その生命を犠牲にされ、息絶えていく。それにも数倍する仲間が負傷し、数多くの家族が、急テンポで苦境に追い込められていく。
日増しに上る物価から、ぐんぐん追い離されていく労働賃金。
就中、差別による仲間とその家族の困苦と窮乏は想像以上で悲壮である。
しかしわれわれは、屈従しない人間らしく生きるための主張をしつづけることを忘れない。
真剣に子どものしあわせのことを考え、労働者としての生甲斐を感ずるために、仲間同志が苦労を分ち合い、しのび合い、信じ合って、人間らしい温かい思いやりで堅く結び合い、つながりあい、つねに、そこから起ち上がる。
人間らしく、強く、正しく、明るく生き抜こうとする夢と希望を持ちつづけることは労働者の当然の権利であり、万金にまさる宝玉であり、誇りである。
どんなに悲しいとき、苦しいときでも、明るくこの夢と希望を燃やしつづけよう。
そして勇敢に主張しつづけよう
お互いが人間らしい思いやりを忘れず、卑屈にならずいたずらに感情に走らず、冷静な判断と行動力でわれわれの自由を守ろう。

※　※　※

かれらがもっと、まじめに、しかも素直に労働者の真価を認め、差別による生産手段を捨てて、労資が真に対等の立場と良心で話し合い、血の通った労務管理を行う日まで断固として抵抗しつづけ、第三次合理化との斗いを力強くおし進めよう。

大会の成功をめざして

すべてのお母さん結集しましょう!!

「生命を生み出す母親は、生命を育て生命を守ることをのぞみます」というスローガンを中心に、婦人の話し合いの広場として年一回の中央大会、県大会、大牟田地区それぞれの母親大会が開催されます。
私達母親のもつあらゆる問題をとりあげて、今年はとくに今まで十分にとりくまれていなかつた面に、力をそそいでいくことが申しあわされました。分科会の構成はつぎの四つの柱をかかげています
① 子供の問題
② 生活の問題
③ 平和の問題
④ 母親運動の問題
なお中央母親大会は
八月二十一、二十二日
場所　明治大学及び法政大学
福岡県母親大会
七月二十八日午前九時受付
場所　福岡高校
大牟田地区母親大会
七月二十一日午前九時受付
場所　中友小学校

竹下オルグ来山

交流オルグはじまる

炭労第三八回臨時大会で決定された今後の賃斗の方針に従って、各地方に指導委員会を設置し斗争指導にあたることになつた。
指導委員は各支部一名を登録し七月四日より交流オルグを実施することになったが、三池には古賀山から竹下オルグが来山し、指導にあたっている。なお、三池からは、古賀書記次長がオルグとして三菱崎戸に出向き、オルグをしている。

三池主婦会も、はや十年の歳月がすぎ、こんど初めての分会長という大役につき、二カ月もすぎました。
苦しいときも、楽しいときも夫とともに進む道、子どもの未来の幸福のため、あの一、二〇〇名の首切り反対斗争で、組合のニュースカーなどでよく情宣されていたように「去るも地獄残るも地獄」と、ほんとうにその言葉どおり、会社はつぎつぎと悪らつきわまる攻撃をかけてきました。
主人にたいしての毎日毎日の差別、また第三次合理化という怪物のような会社の攻撃にたいしては、あくまでも夫とともにたたかわなければなりません。
このような状態のなかで、しかも低賃金に苦しめられれば、どうしても主婦としては内職をせねばならなくなってきます。私たちの分会でも、ほとんどの人たちが内職に出かけ、家庭でも内職をするという状態なのです。私もその例にもれません。

でも、こんどは役職、内職、家庭と、三つを同時に果さなければなりません。私は「内職をやめなければ役職を果す自信がないし、そうすれば家庭はますます赤字になってしまう」と、ほんとに苦しみました。でも私ひとりでは解決できない問題ですので、主人に相談してみることにしました。主人もいろいろと話しあってくれました。そして「内職しながらでも役員をすることもできるのではないか」といってくれましたので、私もやっとその気になりました。
そんなことで私が内職をすこし休んでおりましたところ、ある日ある会員さんから呼びとめられ「会長さん、内職をやってね。いまからさきは内職しながらせんと、いまはどこの家も苦しさは同じよ。物質あっせんなどをそうせずともいまの範囲で分会の運営ができなければ五円でも一〇円でも会費を上げてよかよ。それから私たちでできることがあったら、いってくれんね」といわれました。
会員さんに会うごとに「今年はまたきつかばってん、がんばってたのむよ。」と肩をたたかれ、その一言一言が私の胸にいっぱいで「みなさん、ありがとう。私も一生懸命はたらかせてね」と心でうれしく思っています。ここまでみなさんが思ってくださる言葉にたいしても「よしやるぞ。内職しながらでも」と心をあらたにし、いままでの主婦会の歴史をけがさないようにと心構えをいたしました。

〝どんとこい〟

三川北岡菊江

第一回の支部評議員会に出席してみますと、内職しながら役員をやっていらっしゃる方もあるとか。また谷端支部長からも、これからの主婦会について第三次合理化にたいしての心がまえなどをお聞きして、どうやら私の心もおちついてきました。
「ドンとこい！」の歌の文句ではないけれど、ほんとに「会社の方がたよ次はなにを私たちにドンとやられますか？第三次合理化のお次は？ドンとやられてもハネかえしますよ、コブシと力と団結で……」。
会員さんに会うごとに「今年